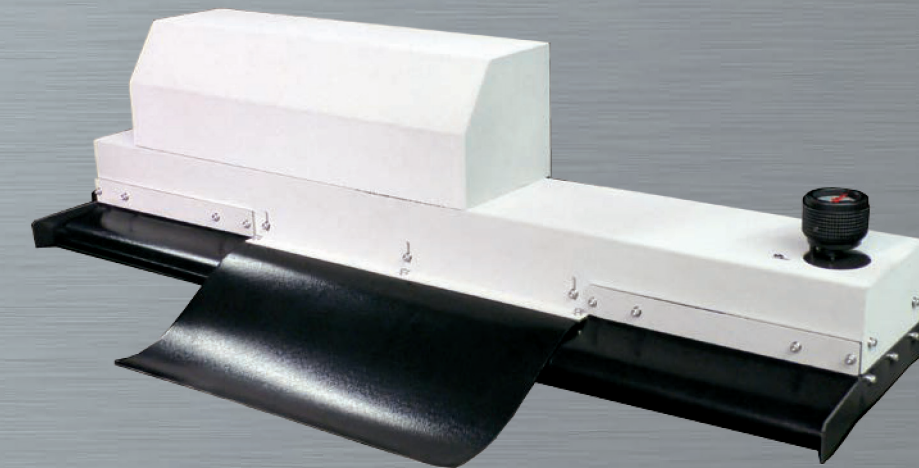


オフセット枚葉印刷用ペーパーヒーター

紙面昇温装置

SION®



- 本製品は、印刷用紙を昇温させる目的のために開発しております。目的外のご使用は行わないでください。
 - 本製品は、印刷用紙を昇温することによりインキの着肉性を補助することを目的としているため、あらゆる印刷弊害を取り除く能力は持ち合わせておりません。また、印刷品質を保证する機器ではありません。
 - 本製品の能力は、印刷環境や用紙銘柄・斤量のほか印刷スピードに応じ、昇温能力に差が生じます。設定温度まで上昇しづらい、または昇温能力が不足する場合は印刷スピードを下げてください。
 - 効果等に関する記述及びデータ表示は、当社の基準によるものであり、使用条件により変わります。
 - 本書に記載の仕様、デザイン、寸法などは、技術改善等により予告無く変更する場合があります。
 - 本製品は国内仕様であり、当社では海外での保守およびサポートは行っておりません。
- ※本書は2021年4月に作成されました
- ※本書は予告することなく内容を変更する場合がありますので予めご了承ください
- ※本書において不明な点、またはお気づきの点がございましたらお問い合わせください

●お問い合わせ先

●製造元

町田印刷株式会社

www.machida.co.jp

お問い合わせ窓口：

戸田工場 印刷装置開発グループ

Tel: 048-422-0888

本社・戸田工場：

埼玉県戸田市美女木東1-1-14



低温化する冬季の印刷弊害を 紙面昇温装置SIONで完全解決!

冬の季節に低温化した用紙の印刷は、

あらゆる弊害をもたらします。

インキの着肉および密着不良をはじめ、紙ムケや文字や絵柄欠けの他、見当不良をも誘発し

生産現場を非常に困らせます。

急激に表れるこの症状は、予測が大変難しく、事前の処置方法が確立されないことは良く知られています。

また、冬季は他の季節と比べ印刷機の立ち上げに時間を要するだけでなく、

エイジングやシーズニングと呼ぶ原反の温湿度を安定調整させるスペースも広大となり、

生産効率を更に低下させる季節と言えます。

これらの非効率な環境を一気に解決するため

印刷現場が考えて作り上げた答えが、紙面昇温装置SIONです。

SIONは季節を問わず用紙の温度を一定に保ち、インキの着肉性を適正化するだけでなく、

年間を通じ品質の安定性と生産性向上の両立を可能にします。

操作性においてもオペレーター目線から設計し、ジョブ毎の切換えにおいても複雑な調整も不要です。

また、SIONは薄紙や厚紙用紙をはじめ蒸着紙・PP・PETなど

さまざまな材質を印刷機の給紙工程上で

瞬時に設定温度まで上昇させます。

SIONは、ストリームフィーダーにおける用紙の重なり箇所も熱風方式を採用することで

原反の全域を温度上昇させると同時に

紙粉除去や除電効果も持ち合わせ、あらゆる環境で品質向上に貢献します。

実用新案 登録実績あり

SION取付機実績

◆ KOMORI

◆ L37 ◆ LS・GL・GLX 40/44

◆ リョービMHI(三菱)

◆ RMGT9 ◆ RMGT10(V3000)

◆ HEIDELBERG

◆ CD102 ◆ XL106

◆ MAN-ROLAND

◆ HiPrint 700 ◆ HiPrint R900

◆ KBA

◆ RAPIDA106

◆ AKIYAMA

◆ eXtreme40

※その他の印刷機メーカー・機種についてはお問い合わせください。



Photo : SION搭載イメージ

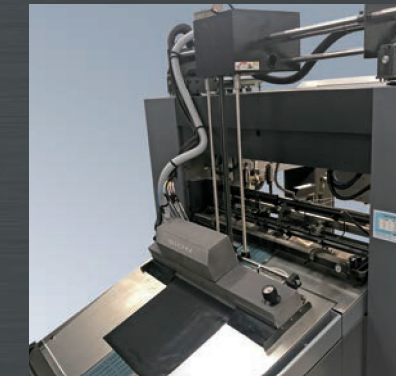
自動昇降装置【リフター】の機能

— 印刷機連動 自動運転機能 —

●ランニングポジション

運転状態は、フィーダーボードに接近し、30mmの至近距離で熱風を紙面に向けて吹き付けます。

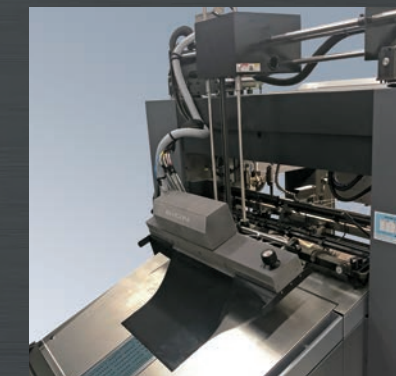
Max330℃



●ニュートラルポジション

印刷停止時は、フィーダーボードから150mm上昇した位置で待機。

急なフィーダー停止や本機停止においても運転位置から自動で上昇。



●メンテナンスポジション

用紙のサイズ変更や給紙周りのメンテナンスを行う際は、最上位ポジションまで上昇可能。

※手動操作



◆詳しくはYouTubeの町田印刷公式チャンネル内にある解説動画をご覧ください。

<https://youtu.be/NaAzrqX5rHc>

スマートフォンの方は
こちらのQRコードを
ご利用ください。



- エッジピックが解消され安心して印刷できるので冬場はこの装置がないと印刷できない。
- 冬場の特定用紙で紙ムケに困っていましたが、SION を搭載することで3000回転以上、上げられるようになりました。
- 月曜日の印刷機の立ち上げに時間が掛かっていましたが、搭載後は月曜日の午前中の印刷立会い予定も組めるようになりました。
- 工場内のエイジング用のスペースが不要になった。
- 冬の原反の温度低下に由来するクレームがゼロとなった。
- 低温原反によりベタの潰れが悪く、空通しが必要となっていた環境から改善が図れた。
- 搬送する用紙間に熱風を吹き入れる機構から搬送姿勢が安定し、アテヤレ事故が SION 搭載後ゼロとなっている。
- 冬場の特殊原反において見当精度が著しく低下する環境が改善できた。
- 冬場に向けてロータックインキの切換えタイミングを毎年予測しながら判断していたが、SION 採用後からインキの切換えに悩まされる心配がなくなった。
- 冬の期間は、週末工場の暖房を入れっ放しにして置かなければならなかった点が必要なくなり、光熱費の点でのコスト改善が図れた。
- 用紙に向けて熱風を吹き付ける機構から用紙サイズの外周部に付着する紙粉が取り除かれ、ブランケットの痛みが減ったことでブランケットの寿命が延びたので、冬場だけでなく年中 SION を稼働させている。
- オペレーターが品質判断や対処方法に迷わされることがなく、金額では表せない効果がある

